

体験発表チェックリスト

サークル名

部署名

年 月 日

1.	チェックポイント 悪さ(問題)を具体的に表現しているか。 テーマは適切か	上級レベル		中級レベル		初級レベル	
		5	4	3	2	1	0
2.	テーマの重要度、緊急度を表現しているか。 サークル及び職場・上司の方針などのニーズに基づいているか。 前後工程の配慮又は前回の活動の反省を活かしているか。	このテーマが、数あるニーズの中から選択されたことが分かる。 悪さ加減をデータ、QC手法で示しており、説得力がある。 前後工程や関連部門を考慮している。 前回の活動の反省を活かしている。		悪さ加減をデータ、QC手法で示している。		一応の説明があるが、要点がはっきりしていない。	
3.	目標の決め方と根拠が明確で納得性があるか。	目標の3要素「何を」、「いつまでに」、「どれだけ」が分かる。 「どれだけ」がゼロを含めて数値の根拠を明確にしている。 予想される効果を金額で換算している。		目標の3要素は示してあるが、根拠を述べていない。		目標の3要素と根拠がはっきりしていない。	
4.	具体的に「何を」「誰が」「いつまでに」が示されているか。	QCストーリーに基づく各ステップについて計画表で表示している。		計画表はあるが役割分担がない。合っても各ステップとも全員になっている。		計画表はない。	
5.	多面的に層別し、パラツキ、違い、変化を見ており、結果(現象)の悪さの掘り下げをしているか。 悪さを絞り込み重点指向をしているか	三現主義に徹している。 時間、場所、種類、症状、工程別や4M等に層別したデータで、パラツキ、違い、変化を調べている。 良いものと悪いものを比べている。		悪さのパラツキ、違い、変化を調べているが、層別が十分とはいえない。		悪さのパラツキ、違い、変化の調べが一面的で、掘り下げが不足している。	
6.	真の原因の候補(要因)をあげているか。 絞り込んだ要因(主要因)が真の原因かどうかデータで調査・検証をしているか。	現状把握の結果、絞られた特性(結果、悪さ)になっている。 原因追求の為に特性要因図や連関図を用いて、なぜなぜ追求をしている。 真の原因かどうか調査・検証をしている。		真の原因かどうか調査・検証をしているが、決めつけるには十分とはいえない。		絞られた特性になっていない。 特性要因図や連関図を用いているが、主要因に対して調査・検証を行っていない。	
7.	現象の除去ではなく、原因を除去する方法を幅広く考えているか。	改善案を引き出し具体化している。(系統図等の活用) 改善案を総合評価して決めている(系統図+マトリクス図の活用)		改善案を引き出しているが総合評価をしていない。		改善案の立案が無く、解析から即対策のステップになっている。	
8.	副作用を調べているか。 解析と対策の結びつきがはっきりしているか。	他の特性や他部門に影響がないが、副作用を調べている。 解析と対策の結びつきがはっきりしている。		副作用を調べている。 解析と対策の結びつきが十分でないまま対策が成されている。		副作用を調べていない。 解析と対策の結びつきが見られない。	
9.	取り上げた理由又は現状把握で使った図表で対策前後を比較しているか。 目標との差に注目しているか。	取り上げた理由又は現状把握で使った図表で対策前後を比較している。 目標との差に注目している。 効果を金額で示している。 無形効果を示している。		データのみで対策前後を図表で比較していない。		全て文章で説明しており、効果がはっきりしない。	
10.	再発防止の手が具体的に打たれ、定着化しているか。(歯止め)	標準化の手続きをしている。 チェックシート、管理グラフ、管理図などを用いて再発防止のための処置をしている。 新しい標準の教育訓練をしている。 水平展開(類似部品、類似工程)をしている。 仕組みに反映している。		単に標準化の手続きをしている程度になっている。		全員に朝礼などで徹底している程度になっている。	
11.	良かったこと、悪かったことが反省され、今後の活動に活かそうとしているか。 今後の取り組みが具体的に示されているか。	活動の振り返りの中で良かったこと、悪かったことについて、それぞれ理由を述べている。 反省したことを今後の活動にどう活かすか具体的に示している。		良かったこと、悪かったことのどちらかを述べている。 今後の課題が抽象的で具体性がない。		反省と今後の課題らしいものが述べられていない。	
小計		5	4	3	2	1	0

合計

--